

県議選展望第1弾！ 有力新人出馬に怯える現職

知事選が思わぬ激戦の様相を呈し、同時選挙の県議選が影を潜めたように見えるが、出馬を模索する有力新人や元職の動きも活発化。県内12選挙区、37議席をめぐり年末年始にかけ各候補者は陣営を固め地盤強化をはかる。

福井市選挙区 少数激戦避けられず 新人、元職出馬で票取り合戦！

前回、5選挙区が無投票と低調だったが、無投票にはならない選挙区、定数12の福井市選挙区は今回も波乱の展開が予想される。

福井選挙区は市議から県議に転身し、3期当選の元職、谷口忠応氏が満を持して返り咲きを狙う。市議時代から政治力を遺憾なく発揮し、その仕事振りは折り紙付き。発信力、気力、体力共にさらに充

実。早々から支援者回りに余念ない。

福井市宝永から三優社工業社長のご子息、山浦光一郎氏36歳が出馬の動きを見せる。

福大付属中学、藤島高校、東大法学部卒の弁護士で、経済産業省模倣品対策室にも席を置き毛並みの良さは抜群。

長らく県教職員組合を牛耳ってきた山本正雄氏が80歳を前にして引退を表明。後継に

県教組前委員長の渡辺大輔氏が名乗りを挙げ、久々の新人候補に県教組は一丸となって支援する。

組織替えて立憲民主党となった野田富久氏6期は県議会民進・みらい会派のリーダーを務め庶民的な感覚も備え、安定した組織と地盤は盤石。

まだまだと9期を目指す山本芳男氏。いざ選挙となれば百戦錬磨、鍛えられたきめ細かな支援者との交流を最大限に生かし個々の票集めは定評。畑孝幸氏3期は心技体とも揃い、福井市選挙区の中で



最も議会人としての能力を備え発信力もある。選挙地盤が狭く毎回激戦の中で勝ち上がり、来春の選挙で激戦を制すれば新元号の下、任期4年間に県会議長も手中に。

1期の長田光広氏は大先輩前田康博氏の後継者として地元森田地区から初挑戦したが、その甘さと油断が重なり最下位となった。この4年間、地域密着の議員活動で地元森田地区への浸透を図り空白地帯の市南部にも支援組織を張り巡らし、中位当選を狙う。前回、初出馬で1万1千票